

日本胸部外科女性医師の会 (Women in Thoracic Surgery in Japan) 2007 年度活動報告

はじめに

医療領域における女性医師人口は年々増加の一途にあり、胸部外科領域においても例外ではない。過去数十年間に渡り主として男性の労力に依存してきた胸部外科領域においても、性別を問わず人材を確保し体制を整えることは、良質な医療を提供し続ける上で今後の重要な課題であるとの認識・要求が高まりつつあると考えられる。そしてこの課題は胸部外科領域に限られた問題ではない。

本会は、会員（特に女性医師）相互の連携および他の学会との連携を計り、胸部外科領域における女性医師の臨床面および研究面での **career** 確立・発展を助長し、幅広く胸部外科領域における医療・医学に貢献することを目的とし、2006 年に設立・活動を開始し、本年第 2 回目の集会を開催するに到った。

活動状況

- 2005年 12月 会の設立を発案（齋藤、高本）
- 2006年 1月 日本胸部外科学会理事会へ日本胸部外科女性医師の会の設立・
日本胸部外科学会総会期間中の集会開催について申請、承認
- 4月 テルモハート・野尻、発起人へ
- 5月 東京女子医科大学・富澤および京都府立医科大学・林田、
発起人へ
- 10月 4日
第1回日本胸部外科女性医師の会集会（東京）
（第59回日本胸部外科学会定期学術集会のサテライトとして）
講演演者：Dr. AJ Carpenter、野尻
- 2007年 10月 20日
第2回日本胸部外科女性医師の会集会（仙台）
（第60回日本胸部外科学会定期学術集会のサテライトとして）
講演演者：Dr. MD. Allen
- 2008年 2月 6日
胸部外科医処遇改善委員会の中に女性医師支援に関するワーキンググループを立ち上げた。
- 2008年 3月
第2回日本胸部外科女性医師の会集会報告書作成

第2回日本胸部外科女性医師の会集会

2007年10月20日 14:00-16:00 (仙台国際センター 3階 白檜にて)

主催：日本胸部外科女性医師の会

共催：日本胸部外科学会・エドワーズライフサイエンス株式会社

協賛：テルモ株式会社、ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社、塩野義製薬株式会社、
CSL ベーリング株式会社

参加者：17名 (ご芳名あり) + 協賛企業よりのご参加、総勢約20名強

プログラム (敬称略)

開会の辞 田林 暁一 (東北大学)

特別講演 座長：齋藤 綾 (東京大学)

‘Experience is the best teacher - what I’ve learned’

Dr. Margaret D. Allen

(Benaroya Research Institute, Seattle, Washington, USA)

教育講演 座長：林田恭子 (東邦大学医療センター大橋病院)

女性医師支援の輪—現状と希望 齋藤 綾 (東京大学)

科研費の計画調書の中で審査員が評価するポイント

富澤 康子 (東京女子医科大学)

フリーディスカッション

閉会の辞 高本 眞一 (東京大学)

*16:00～ 情報交換会

特別講演 Dr. MD. Allen :

‘ Experience is the best teacher- - what I’ve learned’

Dr. Nina Braunwald (米国初の女性心臓外科医) の元で医学部生時代に時間を過ごしたことに始まり、Dr. Allen の一般外科・心臓外科 residency、および Stanford 大学は Dr. Shamway の元での fellowship の様子が紹介された。Dr. Allen がご自身の経験から気がつかれた点をいくつか語られた。まず、男性医師と女性医師の間では医療現場における役割が微妙に異なり、女性の特性としては； # 1、患者さんにとってより話しかけやすく相談しやすい、# 2、縫い物に適している (?), # 3、細心の注意を払うことに優れ、世話人として適している、などがある。また、女性は各方面の医療従事者との連携を図ることに向いていることも挙げられた。一般的に男性は「強い女性」をおそれる傾向にあり、女性が男性社会にて仕事をする上で注意すべき点；即ち「怒ってはダメ」、「なるべく文句を口にしない、若しくは文句に聞こえさせない」、「トラブルの元にならないよう気をつける」、「(状況の支持があっても) 必要以上に自分の優位性を強調しない」、など実際的な注意点を挙げられた。最終的には、自分の存在を周囲にとって「欠かせない存在」に仕上げるのが仕事を継続する上で大切であると述べられた。

WTS のような集会については、経験を共有することが個々のモチベーションを高めることに繋がり、更に連携の幅を広める事に繋がる可能性を含むと述べられた。

講演後、医療教育制度の変化・それに伴う病院や医療従事者向けの社会からの要求・胸部外科志望者の減少などについて田林暁一教授・高本眞一教授を始め会場において活発な議論がなされた。

集会終了後、同センター内のレストランにて懇親会の場が設けられた。

今後の展望

医療現場における女性医師の役割については、胸部外科領域のみならず医療界全体の問題として社会的にとらえられるようになった。胸部外科領域については、職種・性別を問わず様々な立場の方々と考える機会を持つことが出来たと思われた。

女性医師にとって胸部外科医としての生活と家庭人として生活を両立させることは簡単なことではない。解決策の一つとして、年々増加する女性胸部外科医らが個々に積み重ねている様々な経験を何らかの機会を通じ共有することは非常に意義が大きい。今後本集会を継続的に開催し情報・意見交換の場を提供することで、更に女性医師たちが自然にかつ積極的にこの領域において活躍できるよう多少なりとも役に立てばと考える。

今後の会の運営については、来年以降、確実に会を継続する上で日本胸部外科学会定期学術集会の公式サテライトとして集会を開催することで胸外学会より了解を得た。より多くの方に足を運んでいただけるように調節できればと考える。

また、本会はアメリカの WTS の多大な協力のもとに 2 年前に開設された。第 44 回 STS 定期例会 (Ft Lauderdale, 2008) に併設された WTS 集会において、欧州や日本を含め国際的なネットワークを広げることの可能性について提言され、WTS in Japan の今後の発展も期待される。

会計報告

収入

共催費	275,750 円
参加費	43,000 円
寄付金	300,000 円
前年度繰越金	70,638 円

計 **689,388 円**

支出

通信費	6,590 円
記念品	3,650 円
雑費	2,518 円
講演謝金	100,000 円
懇親会費用	83,160 円
ホームページ設立、維持費	100,000 円
会場費（設備使用料含）	75,750 円
次年度繰越金	317,720 円

計 **689,388 円**

発起人・顧問

発起人： 富澤 康子 (東京女子医科大学 心臓血管外科)
齋藤 綾 (東京大学 心臓外科)
林田 恭子 (京都府立医科大学 心臓血管外科)

顧問： 高本 眞一 (東京大学心臓外科 教授)
田林 暁一 (東北大学心臓血管外科 教授)
四津 良平 (慶應義塾大学心臓血管外科 教授)
富永 隆治 (九州大学 心臓血管外科 教授)



2007年 日本胸部外科女性医師の会



特別講演
'Experience is the best teacher - what I've learned'
Dr. Margaret D. Allen





懇親会会場にて

日本胸部外科女性医師の会 連絡先

東京女子医科大学 心臓血管外科
e-mail: stomizaw@hij.twmu.ac.jp

富澤 康子

東京大学 心臓血管外科
e-mail: a-saito@rf6.so-net.ne.jp

齋藤 綾

草津総合病院 心臓血管外科
e-mail: linda99@mac.com

林田 恭子